

美術館コレクションをどう見せるか

——兵庫県立美術館のコレクション展を例に

1 美術館におけるコレクションの位置

- ・美術館の使命 収集・保存・展示
- ・コレクションのない美術館？
- ・日本近代の「美術館」 日本の「近代美術館」

2 常設展示とは

- ・パーマネント・コレクションとは
- ・作品の配列—ジャンル・時代・様式
- ・コレクション展示の再編 様々な試み
- ・展示されているものと収蔵庫にあるもの
- ・日本的な美術鑑賞の形式？

3 コレクション展示の問題点

- ・変わる良さと変わらない良さ
- ・新しい視点・新たな価値の創造
- ・教育普及的視点と来館者へのアピール
- ・誰のためのコレクション展示か？

4 兵庫県立美術館のコレクション展

- ・年3回の展示替
- ・金山室と小磯室
- ・特集展示と小企画

5 試みの一例

2012年度コレクション展 I 「美術をみる 8つのポイント」(3月24日～6月24日)

*会場あいさつパネル(抜粋)

「本展では、展示室の部屋ごとに、ひとつの鑑賞のポイントを問いかけています。まずは、その問いに沿って作品のみをじっくりとご覧ください。ご覧になった後、作品の内容についてリーフレットに簡単な解説がありますのでご利用ください。

当館のコレクションをいくつかの視点から鑑賞することで、新たな魅力を再発見いただければ幸いです。」

- *展示構成
- ポイント1 いちばんリアルな絵はどれ？
- ポイント2 イズムを読み取れるか？
- ポイント3 どんな事件／体験？ どんな記憶／記憶？
- ポイント4 どんな動きがかくれている？
- ポイント5 どれがいちばんモダニズム絵画？
- ポイント6 どんな考えか考えてみる？
- ポイント7 何のイメージ？
- ポイント8 景色をどう切りとるか？

*セクションごとの案内パネルの例

「Point 1 いちばんリアルな絵はどれ？

明治初め、日本人が西洋の油絵を採り入れたのは、何よりもその写実性に感心したからです。本物そっくりであること、リアルであることは、絵の重要な価値です。ただし、どんな絵をリアルに感じるかは、時代や場所、人によって違います。本物そっくりでなくても、強い存在感があってリアルに感じることもあるでしょう。この部屋の絵のなかで、あなたにとっていちばんリアルなのはどれでしょうか。」

*解説ガイドの例(抜粋)

「Point 1 いちばんリアルな絵はどれ？

本多錦吉郎、**神中糸子**は、明治初めに本格的に輸入された西洋の古典的な写実技法を学んだ先駆者です。**池田治三郎**も京都で同じ系統の画家から絵を教わりました。ものの表面を、筆跡を残さず綿密に描き、暗い陰影などで立体感を表わす方法です。**白瀧幾之助**と**青山熊治**は、明治の後半に**岡田三郎助**も教鞭をとっていた東京美術学校で学びました。そこで黒田清輝らが教えた新しい写実技法は、光と影をより明るく表わす印象派風のもので、画面では筆のタッチが次第に目立ってきます。」